

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年1月27日（火）18：30～18：55

場所：内閣府

【冒頭発言】

現地時間の1月26日（月）午前9時から首席交渉官の全体会合が始まったので、その概要を報告させていただく。あらかじめ申し上げるが、今回の会合について、ホスト国である米国は、会合を開催していること自体を含めて一切公表していない。12か国全体での議論が始まっているが、TPP交渉は大詰めを迎えており、残された課題はいずれも各国にとってセンシティブなものばかりなので、今回の会合の中身について対外的に説明することは控えようという雰囲気になっている。そういう中でブリーフィングを行うことの難しさをご理解願いたい。

26日（月）は午前9時から全体会合が始まった。通常であれば、今後のスケジュールの話とかから始まるのだが、今回はそういう話は特段なく、早く中身の話に入ろうということで、午前9時から12時まで知的財産の議論を行った。いつもの「CN+1」（首席交渉官+知財の交渉官）のスタイルで、知財のワーキンググループ（作業部会）議長から全体説明があった。知財の作業部会は23日（金）から行われており、この時点でまる3日間、議論が行われている。作業部会の報告によれば、閣僚で議論しないと解決しないと思われる論点以外についてはニューヨーク（NYC）で終わらせるという決意の下、NYCで終わらせるべき論点を書き出し、その論点ごとに何が議論になっているのか、それについてどの国がどんなこだわりを見せているのかというパッケージリストができつつあるという報告があった。NYCにいる間に、それぞれの論点において名指しされている国々がバイ会談をやったり、少数国会合をやったりして合意案を導き出し、できればその部分について条文作成の作業までして、後で揉めないように固めてしまおうというぐらいの勢いでやるという。これまでの首席交渉官会合における知財の議論の仕方からすると、まとめモードに入っているという感じはする。

なお、あらかじめ申し上げるが、閣僚マターはどういう論点なのか、NYCで終わらせる論点はいくつくらいあるのか、それらは例えばどんなものか等々、お聞きになりたいことと思うが、最初に申し上げたように、今回の会議の内容は一切言わないことになっているので、それをお答えすることは困難であることをご理解いただきたい。

知財については12時まで議論を行い、パッケージリストのそれぞれの論点について、作業部会の議長からの説明を聞いて、CNから質問をしたり指示したりということがあった。それから、閣僚で議論すべき論点についてもCNから意見が寄せられ、どの辺が落としどころかというランディングゾーン、幅をもった落としどころのイメージを作業部会で取りまとめて、30日あたりにもう一度CNで議論しようということになった。

鶴岡首席は、その後、26日の昼に1か国の首席とバイの協議を行った。

午後については、これまではいつも2時頃から全体会合を始めていたが、今回は午前中に全体会合を行い、昼の時間帯にそれぞれバイの協議を行って、午後から夕方までは少数国会合に充て、夕方にもう一度全体会合で集まって、少数国会合で議論したことを踏まえ平場で議論するという3部構成になっていて、このスタイルは初めてのものである。26日は午後1時半から4時まで少数国会合、12人のCNが2つのグループに分かれて、2つの少数国グループで議論が行われた。この日は、テクニカルな論点として、TBT（Technical Barriers to Trade）と物品テキストの2つのグループで議論を行った。議論したのは、閣僚には上げないテクニカルな論点とはいいいながら、毎回CNで議論しても收拾がつかなかったというものである。鶴岡首席はTBTのグループに入り、その結果を4時半からの全体会合で議論している。物品テキストのグループには、我が国からは物品担当の交渉官が参加している。TBTの方は26日夕方に議論し、物品テキストは27日のCN会合で議論することになっている。平場でやると効率の悪い論点については、少数国会合でまず案を固めてから全体会合に諮るというやり方。

4時半から6時頃までは3部構成の3部目、再度の全体会合が開かれ、少数国でやったTBTを取り上げた。これは殆ど既存のTBT協定そのままであり、ほぼテキストの内容は固まっている。北京会合でも「ほぼ合意」という評価であったが、1点だけ、各国の利害とあまり関係ない学術的、国際法的な観点からの論点が残っており、これまで延々と議論が続いてきたものだが、さすがにそれは終わらせようということで、少数国の間である程度現実的な整理案が出てきて、鶴岡首席もそこで色々指摘をして、まもなく終わりそうな雰囲気である。

夕方の全体会合ではもう1つ、「E-commerce」（電子商取引）、これも殆ど終わっているが、CNレベルの論点として、2か国が強く異議を唱えていたものが1つ残っていたが、この日の議論を経て1か国は軟化し。もう1か国も条件付でという感じで、これもNYにいる間に決着できる見通し。

鶴岡首席は26日の夜、さらにもう1か国とバイの協議を行った。ちなみに鶴岡首席は23日にNY入りし、24日、25日、それぞれ1か国ずつとバイの協議を行っている。

分野別の作業部会に関しては、知財が23日から開かれており、最終日の2月1日まで行われる予定。25日からは投資と原産地規則の作業部会が開かれている。26日からはさらに、国有企業、法的・制度的事項、物品貿易のテキストを議論する作業部会が開かれている。原産地規則の部会は、あるときは繊維の部会にもなるわけで、実際26日には、午前中に原産地規則の部会、午後には繊維の部会を行っている。物品MAの交渉については、交渉官以下のチームが現地入りし、26日に2か国とバイの協議を行っている。

翌27日は、午前中はCN会合で物品テキストの話をする予定で、彼らはそこに立会う。午後をバイに充てようということで、取り敢えず1か国とバイ協議の予定が入っている。

大江代理は今日の夕方の便でNYに向かう予定だったが欠航になり、明日午前中の便に変更。28日（現地時間）午後からバイの協議が予定されているところ、それには間に合う予定である。

【質疑応答】

（記者）

初日の知財について、パッケージリストという話があったが、知財の中で特にこの分野というものはあるのか。

（澁谷審議官）

知財には終わっていない論点が多くあり、閣僚に上げるべきと言っていたものも最初は随分あったが、その大半を、できればNYCで終わらせようということで、沢山あるリストの中から、まず、閣僚に上がりかねないものを厳選し、そのうち一部を除いてNYCで終わらせようということになった。それ以外はあまりにもテクニカルなものなので、閣僚会合には諮らずに、という整理をした。

（記者）

知財について確実に閣僚に上がるものについて、ランディングゾーンの議論を始めているのか。

（澁谷審議官）

そういうことだと思う。

（記者）

ランディングゾーンについてCNレベルで話し合ったのは初めてなのか。

（澁谷審議官）

閣僚案件も含め、重要な論点については、これまですべてCNで議論をしてきた。しかし、数が多いのと技術的な面もあるので、まずは作業部会でしっかりと詰めろ、という指示をしていた。しかし、閣僚案件といえども、閣僚に丸投げでは収まらないので、CNレベルでランディングゾーンを狭める努力をする必要があるということで、30日にもう一度CNで議論しようということになった。

（記者）

それは今までも何回かトライしたことはないのか。

(澁谷審議官)

2年前の12月と去年の2月、閣僚会議で細かい論点も含め長時間かけて閣僚で議論をやったことがあったが、それでは解決できず、論点を絞ってから閣僚に上げようということになった。オタワ、ハノイ等を経て、去年10月のシドニー閣僚会議で、6分野に厳選して、且つ6分野の中の論点の数も絞り込んで閣僚に上げて、その論点について閣僚からガイダンスをもらい、議論が行われている。今度は、ガイダンスという形でもう一度差し戻すのではなく、閣僚で決められるようなところまで、あらかじめ間合いを詰めようということである。

(記者)

国有企業の分科会については、どのような調整状況か。

(澁谷審議官)

明日CNで議論する予定であり、そこで報告があると思う。

(記者)

閣僚に上げる知的財産について、たとえば来月に中間会合を開催するなど、今後の工程は描かれているのか。

(澁谷審議官)

取り敢えずNYCでできるだけのことをしようということで、閣僚に上げるものはランディングゾーン、まだ多分、作業部会で議論している最中と思うので、30日にどういうものが出てくるかを見てからCNで判断するのではないか。

(記者)

物品MAのチームもそれぞれバイをやっているということだが、その相手国については、ある程度まとまっている国、まとまりかけている国、もう少し頑張る必要がある国、というカテゴリーで言うとどれに属するのか。

(澁谷審議官)

物品の交渉官チームが26日に協議した2か国はいずれも、まだ頑張らないといけない国である。

(記者)

ある程度まとまりそうな相手国とは、バイ協議を行うことはないのか。

(澁谷審議官)

26日に協議した2か国ほど時間は要らないかも知れないが、ある程度まとまりかけている国とも、いずれ空き時間等を見て話をするのではないかと思う。協議は、十分な時間と会議室を確保した上でやるものがすべてではなく、相手国の交渉官と立ち話する程度の協議も日常的に行われている。

(記者)

MAに関しては、今回もバイ会談をメインに進めて、どこかの全体会で状況を把握する流れなのか。

(澁谷審議官)

そうだと思う。

(記者)

担当レベルでの日米バイについて、特段のスケジュール感如何。

(澁谷審議官)

26日は協議していないが、どこかでやることになると思う。

(記者)

環境の作業部会は行うのか。

(澁谷審議官)

その予定だが、まだ開催されていない。日数かけて行わずに、ある日の午後とかに一回集まって行うことになると思う。

(記者)

全体のCNでも議論するのか。

(審議官)

その予定である。

(以上)